

yachtjin ゴミゼロ 530宣言

普段の生活でごみを減らす

プラごみを出さない

ハーバーにごみを放置しない

ごみは徹底的に分別する

船周りの整理整頓をする

マイバッグ・マイボトルを常備する

台風・大波に備え道具の流出を防ぐ

なるべく沈しない

未来の海を想像する

ごみを増やさない努力。
身近なことから始めよう。

強風や台風が発生すると、ごみが海に流れ込みます。ハーバーの周りを見てみましょう。ゴミ箱は溢れていませんか?モノは適切に固定されていますか?セーリング中や船のメンテナンスに使うものについても注意する必要があります。自分ごととして考えていかないと海はごみで溢れてしまいます。

船やハーバーから出るごみ

ロープ・シート類 帆を固定するタイ

ケーブルタイ 船首のステッカー

クリーニング用品 電線用テープ

ペットボトル セーリングギア

食べ物のごみ 雑排水(下水)

油、燃料、化学物質で汚染されたごみ

船台のタイヤや部品 等々

道具の流出を防ごう



■あらゆるものをロープで留めておく



■ヨットのゴミは放置せずゴミ箱へ

3Rを徹底しよう

リデュース (Reduce)

物を大切に使い、ごみを減らすこと

リユース (Reuse)

使える物は、繰り返し使うこと

リサイクル (Recycle)

ごみを資源として再び利用すること



■気持ちよく使おう

みんなで
頑張ろう!

参考資料サイト一覧

このパンフレットを作るにあたり参考にしたサイト等の一覧です。詳しく知りたい方は是非ご覧ください。

公益財団法人かながわ海岸美化財団 <https://www.bikazaidan.or.jp>

環境省 環境白書 <https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r03/index.html>

神奈川県環境科学センター <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/index.html>

公益財団法人日本セーリング連盟 https://www.jsaf.or.jp/environment/document/sdgs/Topic_4_Booklet_JSAF.pdf

エレン マッカーサー財団 <https://www.ellenmacarthurcancertrust.org>



yachtjin 特別号

藤沢市ヨット協会

検索

編集・発行 特定非営利活動法人 湘南港マリンセンター

藤沢市ヨット協会

〒231-0033 横浜市中区長者町3-8-13-806 Knowledge Trust 内
お問い合わせ rena1007@me.com

発行日 令和3年10月

★この冊子は「かながわボランティア活動推進基金21協働事業負担金対象事業」により作成しました。

yachtjin 特別号

特集

● 私たちのホームグラウンド
神奈川の海を守ろう!



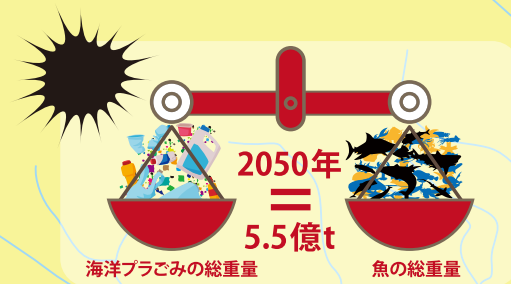
NPO 湘南港マリンセンター



藤沢市ヨット協会

海洋プラスチック2050年問題を知っていますか？

世界の海に漂うプラスチックごみの量は、年々増加しており2050年までに魚の総重量を上回ると警鐘を鳴らす報告書が16年ダボス会議（世界経済フォーラムの年次総会）において発表されました。報告したのは、元プロセーラー、エレン・マッカーサー率いる「エレン・マッカーサー財団」でした。彼女は海の上で活動をするなかで、環境や資源について学習を重ね、その後選手を引退し、2010年9月には循環型経済への移行を推進する財団を立ち上げました。



総海洋ごみ2014年3億トン→2050年11億トン
(そのうちの半分近くがプラスチックごみ)
全世界のプラスチックごみは1年間で490万t～1270万t
(アメリカジョージア大試算)

たくさんの山や川があり、発展した街があり、日本有数の海岸がある。この豊かな自然と環境が実は厄介な問題を抱えているんです。



これは遠い世界の問題ではなく神奈川の海を拠点にする私たちの問題でもあります。

美しく豊かな神奈川の海をもう一度見つめながら、私たちセーラーやマリンスポーツを愛する者たちが、自然環境を守りつつ、目の前の海で何が起きているか知り、何をすればよいか考えてみましょう。



★印がついている写真はすべて公益財団法人かながわ海岸美化財団提供

プラスチックごみの詳細は次ページにて

特集 ● 私たちのホームグラウンド 神奈川の海を守ろう！

東京湾

一見、美しく豊かな神奈川の海ですが・・・。



海洋ごみ、特にプラスチックごみが見過ごせないほど溜まりつつあります。



片付けても片付けても現れる海岸ごみ（漂着ごみ） では海岸ごみはどこからやってくるのでしょうか？

その7割は川から流れ着く

神奈川県には数多くの海水浴場があり、多くの人を訪れます。また、海沿いに街が広がり、その背後には丹沢山系に代表される山がそびえ、山と海をつなぐ川が無数にあります。

私たちの生活の中でプラスチックの多くは「使い捨て」されており、使用后、きちんと収集・処理されず、環境中に流出してしまうことも少なくありません。そして**環境中に流出したプラスチックのほとんどが最終的に行きつく場所が「海」です**。海岸にあるごみの7割は川から流れついたものです。



境川からだけでも年間100トンのごみが流れてくる

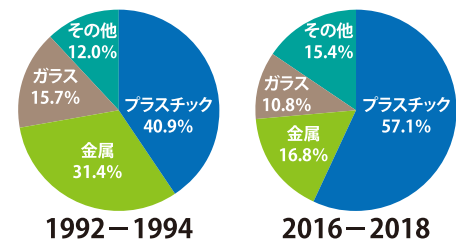
海岸ごみ=行楽客のごみではない
その7割が川から流れてくる

(かながわ海岸美化財団調べ2018)

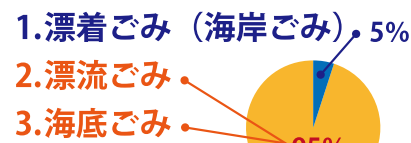


かながわ海岸美化財団が1年間に回収したごみの量は約2000トン。そのうちの約33%約660トンは人口ごみ、そしてその約60%約400トンはプラごみと推計され、プラごみが占める割合は増加傾向にあります。

海岸ごみの(人工ごみのみ)内訳
プラごみの半分以上がペットボトル



海洋ごみは次の3つに分類されます。



そのうち目に見える漂着ごみはわずかに5%、残りの95%は目に見えない海上や海底にあります。

日本沿岸で回収された漂着ごみの内、海外から流れ着くものを含めたボトルや漁網等プラスチック類が占める割合は個数をベースにすると65.8%にのぼります。(環境省2018)



海洋プラごみはなにが問題なのか？ マイクロプラスチック(MP)とはなにか？

マイクロプラスチックとは5mm以下に細かく砕けたプラスチックのこと

世界の海にはポリ袋や漁具、容器などのプラスチックごみが分解されずに至るところに浮遊しています。特に、紫外線や波により5ミリ以下に砕かれた微細なプラごみを「**マイクロプラスチック**」と呼びます。マイクロプラスチックの形状は繊維、破片、フィルム、フィラメントなどです。

食物連鎖を通じて多くの生物に取り込まれる。影響は未知数。

マイクロプラスチックには有害物質が含まれていたり、吸着されていることが少なくありません。そして、それが海洋生態系に取り込まれ、私たち人間の体にも取り込まれていく…。マイクロプラスチックが人を含む生物へどのような影響をもたすかはまだ明らかになっていません。



特集 ● 私たちのホームグラウンド
神奈川の海を守ろう!



最初から微小なプラスチックも大量に存在する。
→スクラブ剤や化学繊維(マイクロビーズ・ナノプラスチック)

MP

マイクロプラスチックは大海へ旅立つ ごみ拾いは不可能になる

沿岸部の波などで破碎されマイクロプラスチックとなったプラごみは自然分解を待たずに沖に移動し世界に旅立ちます。

東アジア海域は27倍の濃度

日本周辺の東アジア海域でのマイクロプラスチックの濃度は、世界平均の27倍にも相当するという調査結果もあります。(九大 磯辺研 2015)

膨大な負の遺産 未来の仲間のために増やさない努力を

プラスチックごみの由来は陸上が大半ですので、セーラーとして我々が行える事は、ポイ捨てしない。見つけたら拾う。当たり前に分けて捨てる。そしてプラスチックごみになりそうなものは選ばない。私たちの日々の暮らしや選択が、今、大きく問われているのではないのでしょうか。海に生きる我々セーラーは率先して行動しないといけない時が来たのだと思います。

いちばんの問題は時間だった！・・・海洋ごみが自然分解されるまでの時間

半永久的に存在し続けるごみ
海洋ごみが自然分解されるまでの時間は、タバコのフィルターで10年、ペットボトルは400年

プラスチックは非常に安定性が高く自然分解に時間がかかります。NOAA(アメリカ海洋大気庁)によるとレジ袋で1.5年~10年、身近なペットボトルでは400年、釣り糸に至っては600年もの時間がかかります。一度海洋に放出されてしまうと、多くのプラスチックごみは数百年以上もの間、海洋中に残り続けるということです。



出典: NOAA / Woods Hole Sea Grant



海洋プラスチック問題に関する国際動向も知っておこう。

国際動向

Topics

1991年イタリアの海岸に打ち上げられたクジラの胃から50枚ものレジ袋が見つかったというニュースを機に、それまで無料配布されていたレジ袋を有料化する動きがヨーロッパで高まる。2018年に発表されたUNEP（国連環境計画）の報告書によると、世界の127カ国がレジ袋の法規制を実施し、83カ国は無料配布を禁止。

また、マイクロビーズ（微小プラスチックのスクラブ材）を含む化粧品や洗浄剤は、アメリカ、韓国、フランス、イギリス、カナダなどの国々が製造をすでに禁止している。

EUは2019年、海洋汚染を防止するため、使い捨てプラスチック製品の流通を2021年までに禁止する法案を採択。ストローやカトラリーの使い捨てプラスチック製品が禁止の対象に。世界中でワンウェイプラスチックともいわれる使い捨てプラスチックの削減が進んでいる。



©公益財団法人かながわ海岸美化財団

G20ハンブルクサミット

(2017.7)

G20サミットでは初めて海洋ごみが首脳宣言で取り上げられた。G7による取組を基礎としつつ、「海洋ごみに対するG20行動計画」の立ち上げに合意。

国連環境総会

(UNEA3)(2017.12)

「海洋プラスチックごみ及びマイクロプラスチック」に関する決議が採択され、海洋プラスチックごみ及びマイクロプラスチックに対処するための専門家グループ会合を招集することを決定。

G7シャルルボワサミット

(2018.6)

G7全ての国が海洋環境の保全に関する「健全な海洋及び強靱な沿岸部コミュニティのためのシャルルボワ・ブループリント」を承認し、「海洋の知識を向上し、持続可能な海洋と漁業を促進し、強靱な沿岸及び沿岸コミュニティを支援し、海洋のプラスチック廃棄物や海洋ごみに対処」するとした。カナダ及び欧州各国が「海洋プラスチック憲章」を承認するものとなった。日米は署名せず。

バーゼル条約の改正

(2019)

有害廃棄物の輸出入を規制する国際条約「バーゼル条約」が改正され、汚れたプラスチックごみの輸出が法的に制限されることになった。

G20大阪サミット

(2019.6)

海洋プラスチックごみに関して50年までに追加的な汚染をゼロにすることを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」がG20で共有された。G20以外の国にも共有を促し、2021年6月時点で87の国と地域がビジョンを共有。

各国の取り組み

米国サンフランシスコ (2014)

■ 公有地におけるペットボトルでの飲料水販売禁止

ケニア (2017)

■ プラスチック製レジ袋の輸入・製造・使用・販売を禁止

中国 (2020)

■ 「プラスチック汚染対策の一層の強化に関する意見」を発表。一部のプラスチック製品の生産等の禁止、代替製品の促進、廃棄物処分強化等について記載。

フランス (2020)

■ 使い捨てプラスチック容器を原則使用禁止

イタリア (2020)

■ マイクロプラスチックを含有する化粧品の製造、マーケティングを禁止

イギリス (2020)

■ プラスチック製ストロー、マドラー、綿棒の配布および販売を禁止

台湾 (～2030までに)

■ 段階的にプラスチック製ストローを完全使用禁止、小売店における無料のプラスチック製ショッピングバッグ、使い捨て容器などの提供を禁止



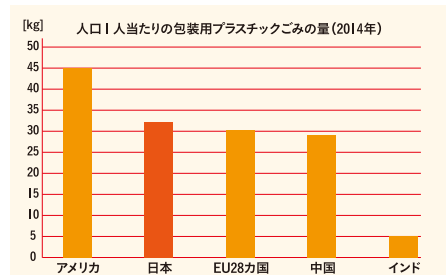
神奈川の海を守るために私たちにできることは？

これ以上増やさない努力。身近なことから始めよう。



容器包装用のプラスチックごみの量は世界第2位

UNEP（国連環境計画）によると、日本は一度で使い捨てられるプラスチック容器包装の1人当たりの廃棄量が世界で2番目に多く、まさに使い捨てプラスチックの大消費国です。（14年）



日本の廃プラスチックの現状

現在は、中国の廃プラスチック（以下廃プラ）の輸入禁止措置を受けて、タイなどの東南アジア諸国へと輸出先が変更されていますが、これまでの輸出量に見合う規模ではありません。今後、国外に輸出していた廃プラの処理について、国内で資源循環する仕組みを考える必要があるのです。



©公益財団法人かながわ海岸美化財団

廃プラのリサイクル方法は、大きくわけて3種類

- 1 マテリアルリサイクル
- 2 ケミカルリサイクル
- 3 サーマルリサイクル

1 マテリアルリサイクルは、廃プラをプラスチックのまま原料にして新しい製品をつくる技術のことです。

家庭から分別排出されたペットボトルについてみると、市町村が収集、圧縮梱包しリサイクル工場(再商品化事業者)に運ばれます。そして工場での選別によりペットボトル以外の不純物が取り除かれ、粉碎、洗浄、異物除去などの工程を経てフレークやペレットなどの再生原料となります。

2 ケミカルリサイクルは、使用済みの資源を化学反応により組成変換した後にリサイクルすることです。マテリアルリサイクルのように目に見える形でリサイクルされるのではなく、燃料などとして油化、ガス化されて使われたり、コークス炉の化学燃料として使われることが多いです。

3 サーマルリサイクルは廃棄物を焼却する際に発生する熱エネルギーを回収し利用することです。焼却することでリサイクル可能なため、分離や選別が困難なプラスチック製品が混ざった資源などには合理的なリサイクル法とされています。



● 特集 私たちのホームグラウンド 神奈川の海を守ろう!

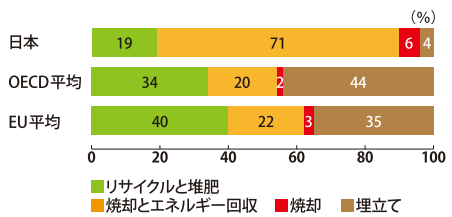
OECD加盟国の廃プラリサイクル方法の比率

	日本	OECD	EU
1 マテリアル	23%	36%	40%
2 ケミカル	4%	20%	22%
3 サーマル	61%	2%	3%
4 焼却・埋立	14%	44%	35%

(2013年の比較)

欧米基準ではサーマルリサイクルはリサイクルに含まれません。マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクルだけをリサイクルと呼び、サーマルリサイクルは「熱回収」「エネルギー回収」としてリサイクルとは別個に扱われます。

OECDが2013年に調査した各国のリサイクル率の統計においてサーマルリサイクルは「焼却とエネルギー回収」としてリサイクルの範疇に含まれていません。



日本とEUでは、リサイクル率の算出方法が若干異なるとはいえ、日本のリサイクル率は、OECD加盟国の中では、他国に比べて大きく遅れをとっています。

私たちの負の遺産を、減らしていく。なるべく使わない。捨てない。

これからは『作って使って捨てる』という流れではなく、なるべく少なくなった廃棄物で何かを生み出す循環型に変えない限り環境を保つことはできないと言われています。